科目名	Advanced Studies in Arts	授業形態	講義
日本語科目名	芸術学特論	開講学期	後期
対象学年	1 年次	単位数	2 単位
代表教員	伊東 辰彦	ナンバリング	ART501
担当教員	伊東 辰彦		

授業概要	
全体内容	「芸術」は英語，フランス語では Art，ドイツ語では Kunst であり，本来「技術」を表す言葉であった。その意味が，現在の我々が使っている内容に変化したのは，西洋の文化においては 18 世紀のことであった。この意味の変容の過程を解き明かすことは，「芸術」とは人間にとって何であるかを考える上で重要な鍵となる。このコースでは，こうした社会の変化との関係性を意識しつつ，広く芸術一般について論じ，芸術作品の分析や歴史的考察，芸術・文化と社会・経済の関係などを，総合的な視点を踏まえて共に考えたい。学生には，人間の芸術活動について学ぶことによって，人間の社会や歴史において芸術がもっている意味についての理解を深めながら，自分という個人にとっても「芸術」が持っている意味を意識することを心がけて欲しい。美とは何か，それを愛する心とは何かについて考えることは，人間が人間であることの条件は何かについて考えることにつながる。各個人が社会的にどのような立場にあろうとも，美的感覚を共有することができれば，きっと，その美を守るために連帯することができるだろう。より具体的には，私自身の専門である 18 世紀のヨーロッパ文化を中心に，それ以外の時代や地域の状況を概観しつつ，リベラルアーツ的視点を重視しながら，人類の文化において「芸術」についての様々な異なる立場が存在する意味を考え，「芸術」が，自らの立場と相手の立場の接点を探るための有効な手段となり得ることを学びたい。人間のもつ美的感覚の多様性は，そのことを教えてくれる最適な素材と言えよう。
到達目標	(1) 講義内容に基づいて自らの問いを発見し，レポートやグループ・ディスカッション，シンポジウムを通して，自らの言葉で意見を表現することができる。 (2) 一般的社会において，漠然と「芸術」と呼ばれながら，その真の意味や特徴がはっきりと理解されていない現状を踏まえつつ，歴史的，実証的，経験的観点から，我々が生きている社会における，「芸術」の総合的な存在意義を理解することができる。 (3)「芸術」を客観的に認識し，今後の社会的活動，あるいは個人の人生において，美というものについての共通認識が，どのように活かされるべきかについて，議論することができる。

授業の位置づけ	専門科目（グローバルコミュニケーション研究領域），選択科目
ディプロマ・ポリシー，コンピテンシーとの関連	ディプロマ・ポリシーのうち，「知識と理解（DP1）」「知識と理解の活用（DP2）」「判断力（DP3）」に関連している。
履修上の注意，履修要件	・剽窃行為や無断欠席があった場合は，登録を抹消する。やむを得ない事情で欠席する場合は，教員に事前に連絡すること。 ・この科目の主たる使用言語は英語である。授業中の使用言語を英語とし，提出課題やレポート試験も特段の指示がない限り英語で解答を求める。

成績評価の方法

評価方法	決められた期日にレポートを提出，それに基づいて全員でディスカッションを行い，最終日に全員が参加してのシンポジウムを準備し，発表，質疑応答を行う。 レポート（3 回，各 10%，計 30%），ディスカッション（3 回，各 10%，計 30%），シンポジウム準備と発表（40%）
評価基準	・「自らの問いを発見し，自らの言葉で意見を表現することができる」ことをレポート，ディスカッション，シンポジウムの評価基準とする。 ・「歴史的，実証的，経験的観点から，我々が生きている社会における，『芸術』の総合的な存在意義を理解することができる」ことをレポートの評価基準とする。 ・「今後の社会的活動，あるいは個人の人生において，美というものについての共通認識が，どのように活かされるべきかについて，議論することができる」ことをディスカッションの評価基準とする。

試験・課題等に対するフィールドバック方法

個人のレポートについては授業内で返却する。シンポジウムの準備については，別途方法を相談する。

テキスト

特定のテキスト（教科書）は指定しない。

参考文献

基本的に毎回の講義で指示するが，主な文献については初回の講義でリストを配布し，内容を説明することとする。主要なものとしては，

１）ネルソン・グッドマン著，戸澤義夫・松永伸司訳『芸術の言語』慶應義塾大学出版会，2017 年；
２）Edward A. Lippman, *The Philosophy & Aesthetics of Music* (Lincoln and London: University of Nebraska Press, 1999)；
３）Idem, *A History of Western Musical Aesthetics* (Lincoln and London: University of Nebraska Press, 1992)；
４）ゲオルク・ジンメル著，川村二郎訳『芸術の哲学』白水ｕブックス，2005 年；
５）エドマンド・バーク著，中野好之訳『崇高と美の観念の起源』みすずライブラリー，1999 年；
６）桑島秀樹『崇高の美学』選書メチエ，2005 年；
７）G. E. レッシング，齋藤栄治訳『ラオコオン』岩波文庫，1970 年；

8）J. J. ヴィンケルマン著，田島玲子訳『ギリシャ芸術模倣論』岩波文庫，2022 年； 9）E. H. マーギュリス著・二宮克美訳『音楽心理学ことはじめ：音楽とこころの科学』福村出版，2022 年，がある。				
その他				
連絡先・オフィスアワー		連絡先：メールアドレスは，t.ito.fo@juntendo.ac.jp。 オフィスアワー：原則として授業の前後とする。それ以外は，個別に相談して決めることとする。研究室は第３教育棟７階，707 号室。		
担当教員の実務経験		なし		
備考		なし		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	伊東 辰彦	導入，コースの概略の説明，文献解題	講義と質疑応答	【予習と復習】自分自身の生活の中で，芸術がどのように作用しているかについて，自らの体験を口頭で具体的に説明する準備をし，それを文章化する。（予習，復習それぞれ 120 分以上）
2	伊東 辰彦	古代ギリシャ・ローマ以来のヨーロッパの伝統	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，ヨーロッパにおける古代ギリシャ・ローマ以来の芸術に関する考え方について学ぶと共に，それが，現代日本の我々にどのように関係しているかを考える。（予習，復習それぞれ 120 分以上）
3	伊東 辰彦	アジアにおける古代以来の伝統	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，日本を含むアジアにおいて芸術がどのように考えられてきたのか，ヨーロッパとの対比を含めて考える。

				（予習，復習それぞれ120分以上）
4	伊東 辰彦	イスラム圏など，世界のそれ以外の文明における伝統	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，イスラム文化，北米，中南米などの文化における芸術の意味について考える。（予習，復習それぞれ120分以上）
5	伊東 辰彦	レポート（１）提出，及びディスカッション	講義とディスカッション	【予習と復習】第１－４回の講義内容を踏まえて，レポート（最低2000字）を作成し提出する。各自のレポート内容をクラス全体で共有しディスカッションする。（予習，復習それぞれ 180 分以上）
6	伊東 辰彦	芸術心理学	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，芸術の一般的意味について人間心理の側面から考える。（予習，復習それぞれ120分以上）
7	伊東 辰彦	芸術と経済：メセナとは？	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，芸術，あるいは芸術家が，どのように社会において経済的に維持されてきたかを考える。（予習，復習それぞれ120分以上）
8	伊東 辰彦	フィールドワーク「博物館・美術館探訪」（どこを訪問するかは未定）	講義，ディスカッション，見学	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，博物館，美術館がどうして存在するのか，その社会的な必要性に

				ついて，実地の見聞を通して考える。（予習，復習それぞれ 120 分以上に加えて，現地への移動時間）
9	伊東 辰彦	レポート（２）提出，及びディスカッション	講義とディスカッション	【予習と復習】第６－８回の講義内容を踏まえて，レポート（最低 2000 字）を作成し提出する。各自のレポート内容をクラス全体で共有しディスカッションする。（予習，復習それぞれ 180 分以上）
10	伊東 辰彦	「ラオコオン」を巡って	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，G. E. レッシングが，古代ギリシャの彫像「ラオコオン」をテーマに，18 世紀の立場からどのように考えたかを学ぶ。（予習，復習それぞれ 120 分以上）
11	伊東 辰彦	「ギリシャ芸術模倣論」を巡って	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，J. J. ヴィンケルマンが古代ギリシャの芸術をどのように理解し，同時代者たちに影響を与えたかを考える。（予習，復習それぞれ 120 分以上）
12	伊東 辰彦	「崇高（Sublime）」とは何か？	講義と質疑応答	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，18 世記イギリスで盛んに論じられた「崇高」という概念について学び，現代に生きる我々にとっての意味

				を考える。（予習，復習それぞれ 120 分以上）
13	伊東 辰彦	レポート３提出，及びディスカッション	講義とディスカッション	【予習と復習】第 10–12 回の講義内容を踏まえて，レポート（最低 2000 字）を提出する。各自のレポートの内容をクラスで共有しディスカッションする。人間の様々な感覚を通して，「芸術」のもつ人間の実存との関係について理解を深める。（予習，復習それぞれ 180 分以上）
14	伊東 辰彦	個人史としての芸術の意味：実例を探り，自らの体験と関連づける	講義とディスカッション	【予習と復習】事前に配布した資料を読み，日本あるいは海外の著名な人物の芸術的背景を探ると共に，各学生のもつ芸術的体験について考える。（予習，復習それぞれ 180 分以上）
15	伊東 辰彦	シンポジウム「リベラルアーツの一翼としての芸術の意味（The Meaning of Arts as Part of the Liberal Arts)」	司会，及びディスカッション	【予習と復習】本コースの講義内容全体と各自の意見を踏まえ，一つのまとめとして，「リベラルアーツ」という概念のもとで，芸術がどのような意味を持ちうるのかについて，20 分程度の口頭発表を準備し，それに基づいて，質疑応答，ディスカッションを行い，全ての人間に共通する美的感覚の存在意義と，それを通じての全世界的連帯に

				ついて考える。（予習，復習それぞれ 270 分以上）

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合，その内容を明記（PBL，反転授業，グループワーク，討議，発表等）